

開講科目名	実験・実習 1 (機械08)		
担当教員	安達 和彦、機械工学各教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

必修科目「生産プロセス技術」、「医療技術・医療用機器」、「生産システムと生産管理」の講義内容を十分に理解し、またそれらの内容を体得するには、単に座学による理解だけでは十分ではない。特に上記の講義内容は、取り扱う範囲が広範にわたることから、できるだけ自ら実体験することによって、はじめて理解を深めるとともに、その応用を考えることができる。また必ずしも実体験しないまでも、特徴的、あるいは最先端の施設や現場を見学し、肌で感じることも重要と考えられる。ここでは、こうした観点から代表的な項目についての実験・実習を行うとともに、最先端の工場、施設、研究施設などの見学を行って、関連の知識を深め、また知見を広めさせる。実験・実習1は、単なる見学ではなく、製造現場等の状況を目の当たりにし、実習したのと同等の体験が得られるよう留意し、前期における上記3科目の講義に対応して行う。

授業の概要と計画

具体的なテーマについて実験・実習を行うとともに、最先端の研究施設、工場、関連施設などを見学し、講義内容に関する実際を自ら体得する。実施場所は、それぞれの目的に応じた場所を選定する。主な実験・実習内容は以下の通りである。(なお、実施場所の都合などにより、内容は一部変更することがある。)

- 「生産プロセス技術」関係
- (1) 先端研究施設見学(神戸大学ほか)
 - (2) 鋳造技術((株)虹技)
 - (3) 機械の振動実験・実習(神戸大学)
 - (4) 関連の工場見学((株)三菱重工業神戸造船所)
- 「医療技術・医療用機器」関係
- (1) 神戸大学医学部付属病院見学
 - (2) 神戸大学医学部保健学科見学
 - (3) 神戸中央市民病院見学
 - (4) 兵庫県福祉のまちづくり工学研究所見学
 - (5) その他関連施設の見学
- 「生産システムと生産管理」関係
- (1) 先端研究施設見学(神戸大学)
 - (2) (株)川崎重工業見学
 - (3) (株)村元工作所見学
 - (4) (株)コマツ見学
 - (5) その他関連する工場、施設の見学

成績評価方法と基準

各テーマについて実験・実習した内容に関するレポートを提出させ、提出されたレポートの結果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、実験・実習の内容を十分に理解して体得し、意欲的に実験・実習に参加したと判断できる場合を優、実験・実習の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、実験・実習内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし。前期における「生産プロセス技術」、「医療技術・医療用機器」、「生産システムと生産管理」の講義と関連して実施する。

オフィスアワー・連絡先

決まったオフィスアワーは設けませんが、永井千秋 (mail: nagai-chiaki@kobe-ipc.or.jp) に事前に連絡してください。

学生へのメッセージ

テキスト

特になし。随時補助的な資料などを配布する。

参考書・参考資料等

開講科目名	医工連携特別講義(機械07)		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

医工連携コースに関連する知識を幅広く修得することを目的に、医療機器設計製造技術や技術経営学など、いくつかのテーマを設定して講義する。また、工学の基礎知識を実際の製造現場に近い立場から理解するための講義を行う。

授業の概要と計画

主な講義内容は以下の通りである（変更する場合がある）。

- (1) 実践的工学の基礎
- (2) 実践的工学の応用
- (3) 医工学特別テーマその 1
- (4) 医工学特別テーマその 2

成績評価方法と基準

教員毎に講義内容に関するレポート課題を課し、学習意欲と加味して、総合的に評価して成績を判定する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし。

オフィスアワー・連絡先

決まったオフィスアワーは設けませんが、教学委員（ mail : kazuhiko@mech.kobe-u.ac.jp ）に事前に連絡してください。

学生へのメッセージ

テキスト

随時、資料を配布する。

参考書・参考資料等